

## オーストラリア海外派遣を終えて

藍住中学校 中原 里菜

初めての海外生活は戸惑いが大きく、日本語が通じないということを直面し私はすぐ日本へ帰れないことを実感しました。さらに、不安が大きくなりホームシックになってしまいました。そんな中で、ホストマザーが私をだきしめてくれたときは、とても安心しました。

オーストラリアに着いた日、ホストファミリーは私達がオーストラリアの環境に慣れるように一緒にベイマックスを見てくださいました。ベイマックスは英語でしたが、とてもおもしろく、ホストファミリーみんなで笑いました。

休日は、ホストマザーとホストシスターと一緒にショッピングセンターとビーチに行きました。見るもの全てが大きく、私が大きいのと思っていたゆめタウンでさえ小さく感じるほどでした。ビーチは日本の海とは違い、砂浜は黄色く海は青く透き通っていて同じ海と感じないくらいでした。その時、なぜか世界の広さを体全体で感じた気持ちになりました。ホストファミリーとの思い出は一週間の中で沢山あります。中でも思い出に残っているのは、家の裏の森の木の枝をとりに行き、庭でたき火をして焼きマッシュマロをしたことです。木の枝にさしたものを食べることは経験したことがなく新鮮でした。



週末あけて学校へ行き久々に友達と会ったときは何か肩の荷が降りたようにホットした気持ちになりました。学校では、ダンスやバレーボールをしたり、オーストラリアの授業を受けたりしました。オーストラリアの学校の授業は75分が4時間でした。日本の学校の授業よりも25分長い授業に集中力がもつかなと思いましたが、日本の授業のようにあいさつから始まらず、先生の授業の準備が30分位かかることもありました。私が今まで思っていた学校との違いを感じました。休み時間になると、バディの子と一緒に手遊びをしたり、日本の手遊びを教えてあげたりしました。私は初め、言葉が分からないのに、一緒に遊ぶことはできるのだろうかと思っていました。ですが、言葉を上手く話せなくてもバレーボールのルールは同じだし、ダンスは言葉がなくても楽しくおどれるということに気づいたことが心に残っています。不安も沢山あったのですが、とても楽しい学校生活を送ることができました。



日本に帰国し、改めて思うことは、またオーストラリアへ行きたいと思います。あんなに、早く帰りたと思っていたのに、また行きたい気持ちでいっぱいです。今回経験した事は、私にとって物事の考える幅を広くしてくれたように思います。

